



「模様こめられた自由闊達な
創造力を愛でてください」

特定非営利活動法人
コンソーシアム有松理事長

中村 俣子さん
Yoshiko Nakamura

「模様を着る」
開催記念スペシャルインタビュー

Enveloping
Patterns

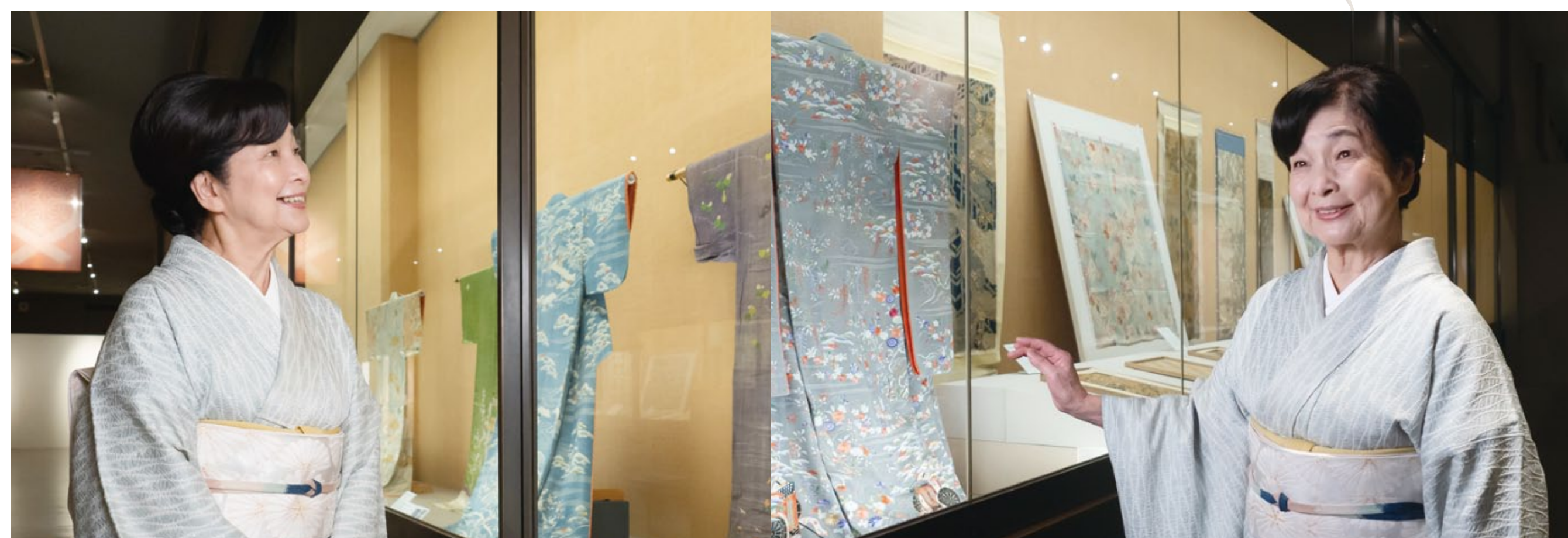
特別展

10月10日(土)～12月6日(日)、名古屋市博物館で開催されている特別展「模様を着る」。

名古屋市博物館所蔵の松坂屋コレクションを紹介する本展の魅力について、
生まれたときから着物に慣れ親しんでいる中村俣子さんにお話をうかがいました。

有松・鳴海絞の老舗、七代目竹田嘉兵衛の長女として生まれた中村俣子さん。着物に囲まれて育った中村さんは、今回の『模様を着る』展に特別な想いを寄せているそうです。なぜなら、絞りの技術は“模様の原点”だから。「模様を生地に表そうとしたら、刺繍をほどこすか、絞りなどの染織技法で染め分けして模様を描く必要があります。有松には何百種の絞りの技術がありますから、絞りだけで多種多様な模様を描けたのは有松の強みだったんですよ」と、着物の模様と有松との関係について教えてくださいました。

さらに「模様にはいろいろな意味がこめられているってご存知ですか?」と茶目っ気たっぷりの笑顔を見せてくださいます。細かな文字が隠された江戸小紋をはじめ、鎌の絵・輪の絵・平仮名「ぬ」の3つの文字と記号で“かまわぬ”(※1)を語呂合わせのように伝える意匠などがあります。模様の使い方も時に大胆不敵でした。質素儉約を命じられた町人が羽織の表は地味にして羽裏(※2)を思い切り派手な模様にあしらったり、秘めたるが花で八掛(※3)にハッと驚くような模様を選んだり…。例をあげればキリがないのだそうです。おめでたいお席にお呼ばれしたら、着物の模様や帯との組み合わせでお祝いの気持ちを表したり、さらには、真夏に雪の模様で涼しさを演出したり、クスッと笑えるメッセージを纏って愉快的な時間を作り出すことも。模様の組み合わせで相手に思いを伝えることだってある。模様は言葉以上に雄弁なのです。



模様こめられた意味を知って、それを着こなすことはとても粋な着物道なのですね、と中村さんに聞かけると「でもね、大切なのは、そんな遊び心がいっぱいの模様をいかに美しく着こなすか、なの。そのためには、模様を知ること、そしてたくさん着物を着ることでしょうね。だから、この展覧会では、昔の人々の自由闊達な発想力と遊び心をたくさん見つけて愛でていただきたいと思います」と印象に残る言葉をくださいました。上品かつ快活なお話しぶりと、時に少女のような表情でジョークを飛ばす中村さん。その感性の奥深さは、きっと着物の模様からも多くを学ばれたのだと確信することができました。

(※1)かまわぬ／「鎌・輪・ぬ」を絵と文字で描かれた柄で、「構わぬ」つまり物事にこだわらないことを示している。

(※2)羽裏(はうら)／袷の羽織の裏につける布のこと。

(※3)八掛(はっかけ)／袷の着物の裾裏などにつける布のこと。



近江八景模様小袖



紅葉に鳥兜模様袱紗



垣に萩模様小袖裂(部分)



菊に八橋模様小袖

いずれも名古屋市博物館蔵
(松坂屋コレクション)

Profile

特定非営利活動法人
コンソーシアム有松理事長

中村 俣子さん
Yoshiko Nakamura

1943年、名古屋市有松の絞商・7代目竹田嘉兵衛の長女として生まれる。89年フィニッシングスクール「フェリシアカレッジ」開校。98年より実家の竹田嘉兵衛商店で催事企画等に携わり、2017年ライブラリーカフェ「庄九郎」オープン。特定非営利活動法人コンソーシアム有松の理事長を務め、“染織を継承する地・有松”のために活動している。

名古屋市博物館特別展「模様を着る」

衣服や布を彩る模様に着目し、その意味を探りながら、そこからみえる人々の暮らしや想いに迫る展覧会。百貨店松坂屋が呉服デザインのために集めた膨大な染織コレクションのなかから選りすぐりを紹介します。

■期 間／2020年10月10日(土)～12月6日(日)

■場 所／名古屋市博物館

■観覧料／一般1,300円・高大生900円・小中生500円

※着物でご来場の方は当日料金より100円割引

